



一般社団法人北海道身体障害者福祉協会  
会長 赤坂 勝



第65回全道身体障害者福祉大会小樽大会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

全道各地から700余の参加者とともに、海と山に囲まれた美しい自然、四季が織りなす多彩な風景、そして明治・大正・昭和の面影をしのばせ、かつての栄華を今に伝える運河や歴史的建造物をはじめ、多様な観光資源に恵まれた魅力ある小樽市において19年ぶりに、65回目の全道福祉大会を開催できましたことに地元の会長も兼任しております私にとりましてこの上ない喜びであります。

大会の開催にあたりましては、小樽市御当局、福祉関係諸団体、ボランティア、多くの市民の皆様、そして後志地区身体障害者福祉協会の佐々木会長、地元の小樽身体障害者福祉協会の皆様には大変なご尽力をいただきましたことを、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

永年地域社会での障がい福祉活動や御自身がその障がいを克服され懸命に御努力をされた事が評価され、表彰される皆様方に心からお祝いと感謝を申し上げます。これからも健康にご留意されてそれぞれの地域での、より一層の御活躍を御期待申し上げます。

さて、本年4月私たちが長年求め続けてきた、障害者差別解消法が施行されました。この法律が施行されたことにより障がいを理由とした差別の禁止や合理的配慮の提供の規定は100%とはいかないものの、障がい者福祉にとりましては、大きな進展であり喜びとともに新たなスタートとなったわけであります。

北海道身体障害者福祉協会は、日身連と協調し創立以来70年余にわたり障がい者の権利や地域での自立や社会への理解を求め、更には21世紀に入ってからには障がい者も健常者も無い共生社会の構築を求めて運動展開をしてきました、このたび障害者差別解消法の施行により一歩共生社会に近づいてきましたが、私共当事者団体として積極的に更なる法の理解と啓発や周知を広く道民に粘り強く訴えていかねばと考えております。

今日70年前と比較しますと制度としての障がい者福祉が私共の運動展開により劇的に向上し、福祉サービスが受けられるようになりました。しかし近年、所属50団体協会がおしなべて会員の高齢化の影響による減少と個人情報守秘義務の壁によって新たに障害者手帳を取得された障がい者への入会勧誘が非常に難しく、著しく会員が減少し組織の弱体化が進みつつあることは、加盟団体にとって重大な問題でありますし、ひいては存続自体が脅かされております。

北海道身体障害者福祉協会としては、その対策として再々道の保健福祉部へ福祉団体活動に対する協力の依頼を陳情してきたところですが、漸く昨年11月9日付で障がい者保健福祉課長名で各市町村福祉担当課長あてへ障がい者福祉団体の活動に対する協力についてという通達が出されました。

加盟団体の皆様には、是非、この通達を十分に理解して頂く様それぞれの市町村のご担当者に働きかけをしていただき一人でも多くの新規会員の獲得にご努力を願いたいと考えております。

そのために北海道身体障害者福祉協会は、少ない事務局体制ではありますが、様々な補助事業や委託事業を通して加盟団体の皆様と密接な関わりを持ち御協力をさせていただいておるところですが、今後も一層の努力をさせていただきたいと考えております、共々北海道の障がい者福祉の推進に邁進してまいりましょう。

結びに本大会にご参加頂きました皆様方が益々地域福祉の活動の中心となってお元気でご活躍されることを願い、関係各位、ボランティアの皆様方、小樽市民の皆様方にお世話になりましたことに御礼を申し上げご挨拶といたします。